

共生・公正・創造
共生の精神のもとに、心
とところをつなぎ、次代
につながる公正な社会を
創ります。

JR東日本労働組合 東京地方本部

JR東日本労働組合
東京地方本部
東京都千代田区鍛冶町2-11-11
発行者・郷 重雄 編集者・室岡 圭司
TEL(NTT)03-3251-2191
FAX(NTT)03-3251-2192

職場からの議論と発信で 組織の強化・拡大を実現しよう

東京地本 第9回定期大会開催

東京地本は、2020年12月12日東京都品川区の南部労政会館において、第9回定期大会を開催しました。
今大会はコロナ禍での開催となり、万全の感染防止対策を取り、出席者も各分会とエルター協議会の代表者に限定しての短時間での開催となりました。また、参加者を限定したため、大会運営も執行部が担うなど異例の議事進行を余儀なくされました。少数での開催となりましたが、集中した議論で実りの多い大会となりました。向こう一年間の運動方針と予算を確立し、新執行体制を選出し、成功裏に大会を終了することが出来ました。

年末手当の悔しさをバネに 2021春闘をたたかおう。

中央本部・瀬戸執行副委員長挨拶

大会は佐藤副委員長の司会で開会し、資格審査報告が行われ、大会成立が確認されたあと、議長に郷執行委員長を選出し、議事が進められました。

スローガン（案）の採択後、挨拶に立った郷執行委員長は「労働組合も新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。新型コロナウイルスは、何か悪いことをしたから感染するというのではなくなっている。そういう環境下で本部のガイドラインに沿って活動していく。」
会社は変革2027の加速を明言しているが、労働組合がそれに対して意見していくことが求められている。
秋田で若い仲間が加入してくれた。東京地本の3名の平成採用組合員と共に一つひとつ議論しながら進んでいきたい」と述べられました。
（要旨別掲）



を果たしていく。

年末手当は初めて追加申し入れを行った。2、2ヵ月では足りないという声を経営側にぶつけたがセロ回答に終わった。この悔しさをバネに2021春闘に向かいたい。

秋田の地で2名が加入。年末手当交渉中での拡大は力になった。ともに運動する仲間として行動したい。加入に当たっては職場先輩からのアドバイスが重要だった。さらに拡大に向け一人が一人にかかわりを持って、魅力ある組織、自分になれるように、一歩が重要である。

中央本部、先頭になって頑張っていく。組合員一丸となってこの難局を乗り越えていきたい。」と、東日本ユニオンの

進むべき方向性について挨拶をいただきました。

叡智を結集し、力の発揮を
退職者連絡会・渡邊会長挨拶



続いて退職者連絡会の渡邊会長から挨拶をいただきました。

「退職者組合101名、退職者組合の発展のためには現役の発展が大事。一層の組織強化拡大をお願いしたい。」

JRの経営も厳しくなっている、労働者の賃金切り下げ、利用者サービス低下に安易に流れるのではないか、こういう時に叡智を結集し、労働組合本来の力を発揮し労働条件を維持する取り組み、チェック機能を発揮することが大事。

今日は、このようなかでも開催を決断した地方本部、その決意に敬意を表して激励にきた。頑張ってください。」と激励を受けました。

その後、休憩をはさんで執行部より議案の提起を行いました。

運動方針（案）、2019年度決算、会計監査報告と提起を行い、決算承認後、続けて2020年度予算（案）、分會体制の見直し（案）と執行部から提起を行いました。つづいて、質疑応答に移りました。

質疑では、4名の代議員から発言をいただきました。

職場問題では、コロナ感染者発生時の職場対応、年休問題、コストダウンなど。業務委託に伴う問題点や不安、エルター職場の現状や将来に向けての要望、終電繰り上げ、初電繰り下げに対する対応。など現実的な問題、悩みを中心に発言がありました。（要旨別掲）

その後、執行部から答弁を行い、採択が行われ全議案が満場一致可決されました。（要旨別掲）その後、新執行部を選出したあと大会宣言を採択し、最後に郷執行委員長の団結頑張ろうで終了しました。

職場の問題について意見交換・発信を 郷執行委員長挨拶



郷執行委員長

いる。この会社のスタンスに労働組合がどうしていくのか。職場で起きている問題について意見交換をして、会社の進めていこうとしていることに労働組合の側から意見をしていくことが、今求められている。

労働組合が今どういう状況かは皆さんが職場で感じていると思う。

秋田で若い仲間が2名加入してくれた。労働組合の大切さと役割を説明してくれたのはユニオンだった。日頃感じていることを発信して意見交換をしていくことが大切、それが加入に現れている。

職場の中でいろんな意見交換をして発信していただく。そして地本としてやらなければいけないことを発信していただく。そういう取り組みをこれからも進めていく。それが我々の課題。

東京地本、組合員数は残念ながら6年前の統一以降、年とともに減っている。平成採用は現在3名。この3名とともに労働組合としてユニオンが何をしていけばいいか、一つ一つ議論しながら進めていく。

皆さんには、この場で意見を発信していただくことをお願いする。

今日の新聞にゲノム編集の記事が載っていた。トマトのゲノム編集をやっても、何の審査もなく一般家庭に出しているという

主な発言内容

職場問題

職場でコロナ感染者が出た。感染拡大から半年以上たっているのに、管理者がバタバタしていた。フロアのようなものがあれば安心できるのではないかな。

年休申し込みに対して時季変更が大量に出された。区長が、これまでの慣行を変更して申込理由によって年休付与の順番を変えるように言っている。

ジョブに伴う転勤や年休問題で職場の中がグチャグチャ、どうしていったらいいのか。

業務関係

ホームドア、TASCが乗務員の意思に反して動作する。もう一度再調査、調整してほしい。運転している不安、ストレスになっている。

「変革2027」で職場では、働き方、業務、育成が言われている。予算削減されコストダウンが言われている。

終電の繰り上げ、初電の繰り下げ、作業間合いの拡大になるが、拡大が1時間ぐらい、そこで何ができるのか。考えているところである。

委託関係・エルダー関係

駅委託では、異動や業務の変更など丁寧に説明してほしい。また、出向社員と委託会社社員がうまく行くのか不安がある。委託がサービステラに下がらないようにしてほしい。

業務の内容がどういう内容で委託されているのかという線引きについて。委託会社社員への教育は運転に関わるものもやる。取り扱いはやらないが知識はある。できるもの、できないものの境界が薄れてきた。

上野乗客がSCSPに移管される。業態が変わる。会社は面談をしているが業態が変わるため退職してしまうという人もある。

エルダー先がなかなか決まらない。いまだにそうなのか。

職場のエルダー社員がだんだん減ってきている。当初の出向の意義をもう一度考えて、適切にさせないようにはしたい。

年末手当

年末手当2.2ヵ月。現場は直接お客様と接している、それにしては会社は冷たい。現場でも管理者が冷たい。不安な中で仕事している人にあまりにも会社は冷たいのではないかな。

会社は2021年は黒字にするとやっている。果たして黒字になった時にボーナスが戻るのか心配。戻れるように会社のために組合員として頑張っていきたい。

組織拡大

職場に組合員ひとりとなってきた。組合員の拡大強化、模索している。

出席いただいた
代議員の皆さん

伊藤代議員
山手車掌区連合分会
松本代議員
東京駅連合分会
田口代議員
建築技術セ分会
樽見代議員
エルダー協議会
榎代議員

メッセージ

今定期大会に、全地方本部からメッセージを頂きました。大変ありがとうございました。



執行部答弁

200名組織に
向け努力を
難波組織部長



ひとりの職場での活動。出来ることは限られるが若手を含め声掛け、関係作りをして行っていく。200名組織に向けて頑張っている。

最近、他労組でも不安を持っている組合員がいる。関係づくりをしなから協力をしていくことも必要と思っている。感情を乗り越えながらやっていきたい。

皆さんの声で問題を
クリアに
佐藤副執行委員長



コロナについて。バタバタするのは当たり前。全く想定していない事態が出ている。職場によってさまざま状況が違うが、支社危機管理本部は本社から来た情報を流すだけ。現場の状況を把握するということはない。支社には具体的な問題を一つひ

職場から共闘
の実現を
小泉書記長



秋田で2名の若い仲間が加入してくれた、全体で喜びたい。彼らを迎えて彼らに伝えることのできる組織を作らなければいけないと身の引き締まる思いをしている。

コロナに翻弄された一年。しかし交渉についてはしっかりとやってきている。交渉で感じたこと、一つは会社は徹底的に管理者を守ること。我孫子で発生した起床装置をめぐる賃金カットの交渉においてはしっかりと、たのび、確認が重要。全然できていない。しかし、会社は管理者を守る。私たちは徹底的に組合員を守るというスタンスをはっきりさせてやっていきたい。

もう一つは「現場から問題が上がって来たらませ」と言われる。じゃあ問題を上げようということ。ただ一人じゃ弱い。みんなで背中を押して、押されてという関係を作っていく。仲間の一体感を感じられるような関係を作ることが是非とも必要。

地本にも平成採用の仲間が3名いる。今、組合加入者は現職で1万人ぐらいい、2割くらいと言われている。加率的に組合加入者が減っている。職場に労働運動を残せるのかという危機感を持っている。方針に「JR労働運動の大同団結・一元化」と書かせていただいた。いかに労働組合が力を発揮して、組合未加入の人に労働組合の必要性を訴えかけて行けるのかというところに来ている。今年は本気で共闘を追求していききたい。難しい課題であるが、職場から共闘を作り上げることが目指したい。一人でも他労組の人と一緒に、共通の課題で、課題別共闘から、そういうものを積み上げることが重要。感情問題乗り越えて労働者がまとまれるかどうか、それがいま問われている。是非一年間、問題解決のために垣根を取り払いながら共闘を積み上げていきたい。

分会体制の見直し

今定期大会で「分会体制の見直し」について提案し、可決成立しました。したがって新たな分会体制は左記のようになります。

現行「新宿地区駅連合分会」と「東京地区駅連合分会」を統合し、新たに「営業連合分会」を結成します。

現行「山手車掌区連合分会」と「松戸車掌区連合分会」を統合し、新たに「車掌区連合分会」を結成します。

現行「建築技術センター分会」を「設備連合分会」とします。

結成大会は、2月末日までに開催します。

分会体制の見直しに伴い、部会廃止します。

新分会体制

- ・営業連合分会
- ・車掌区連合分会
- ・運転区連合分会
- ・東京総合車両センター分会
- ・設備連合分会



スローガン

安全で働きやすい職場と
JR労働者の連帯をつくり出し
平和で安心して暮らせる社会づくりに寄与する
労働運動をつくり出そう！

新執行体制

執行委員長	郷 重雄
執行副委員長・業務部長	佐藤 充
執行副委員長・財政部長	小宮 実
書記長	小泉 弘明
総務部長・厚生部長	須貝 欣一
組織部長	難波 剛
業務担当部長	守屋 和美
教宣部長	室岡 圭司
会計監査員	久保田 勉
会計監査員	鈴木 英司
特別執行委員	依田 匡一
特別執行委員	福田 高夫

※新執行部は全員再任です。
※執行委員の担務および、特別執行委員の指定は、第1回執行委員会で決定しました。